

生徒が主体的に取り組む授業の創造を目指した実践

【杉戸町教育委員会】

1 学校・学年・教科 中学校・全学年・社会科

2 ねらい

積極的な生徒指導の手法を生かしながら、生徒一人一人の思いや願いと、教師が身につけたいとしている意図やねらいを一体化させ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

3 取組内容

「好きこそ物の上手なれ」と言われるように、まず生徒が社会科を好きになることを前提にした学習方法や学習形態を工夫すると共に、厳しさの中に優しさのある人間関係の醸成を図りながら、Jプランでの小中連携を生かした計画的・継続的な授業を実施した。

(1) 課題解決学習の段階的・計画的実践

Jプランによる小中連携を生かし、5年間（小5・6年、中1・2・3年）を見通した課題解決学習を段階的・計画的・継続的に実施した。特に課題を解決する生徒のあるべき姿を定め、そのための方策と具体的な手だてを明確化し、生徒一人一人に指導・支援を繰り返した。その際重要なのは、「わたしの予想は、・・・」「ぼくの予想は、・・・」と個人としての予想をしっかりともてるようにすることである。

(資料1 「課題解決の方策と具体的な手だて・教師の指導と支援」参照)

資料1 課題解決の方策と具体的な手だて・教師の指導と支援		杉戸町立 中学校社会科部会
校内研修課題 目指す生徒像	【教育に関する三つの達成目標の推進】～基礎学力の定着を目指した教育活動の工夫～ ・自分で問題を見つけ、自ら考え判断しながら、解決していく資質や能力、すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに、課題解決の喜びを実感できる生徒	
社会科研究課題 研究課題に迫る キーポイント	・生徒が自分の学習活動に主体的に取り組む授業の創造（課題解決学習の実践） ・生徒一人一人の思いや願いと、教師が生徒一人一人に身につけたいとしている意図やねらいをどう一体化していくか、生徒の主体性を最大限尊重しながら、教師がどう一人一人に援助、支援していくか。	
課題解決の方策	生徒のあるべき姿 教師の指導と支援	
I 課題発見力の育成 具体的な手だて 一人一人の課題意識を高める指導	①生徒が学習課題に気づくようにするための手だて ア 生徒の解釈できない、相矛盾する複数の資料を提示する。 イ 生徒の考え（予想）を出させてから、その後資料を提示する。 ウ 生徒同士の考えの違い（ずれ）を生かす。 エ 身近な事実や具体物と比較し、数量に対する驚きを生かす。 オ 生徒の心や感情に訴える。 カ 具体的なものを体験に接して、生徒のイメージをふくらませる。 ②「わたしの予想は、・・・」「ぼくの予想は、・・・」と個人としての予想をしっかりともてるようにする。 ③「自分の予想を確かめるためには、自分はどのようなことをどのような方法で調べるか。」という、学習の方法を考え、検証の計画を立てるようにする。（課題解決の方法や内容、手順など、生徒たちが学習計画を立案していく過程の指導を重視し、生徒一人一人が自立して問題の解決に取り組めるように支援する。）	
課題解決の方策 II 自力解決力の育成 具体的な手だて (1)生徒が学習計画表を作成する (2)学び方カードで生徒の活動を支援する (3)生徒の自力解決をうながす指導のポイントの明確化	①学習の方向や見通しをもつようになることにも、自分の学習の位置を確認しながら学習を進めることができる。 ②生徒一人一人が、自らの学習計画に基づいて自力で課題解決するための学習活動を進めたりする学習方法を身につけている。 ③地図やグラフ、写真、統計資料、年表など、読み取らざるに資料の見方やそこから事象を捉えたりする技術や能力を身につけている。 ④ビデオやデジタルなどの教育機器や、学校図書館などを効果的に活用する技術や能力を身につけている。 ⑤「見えないもの」や「聞こえないこと」から考えることができる。	
課題解決の方策 III 生活への自立化を図る 具体的な手だて 日々の生活や学習の中で課題解決的な体験をうながす	①一人一人が学習の見通しをもち、自力で課題解決ができるよう支援する。 「学習計画表」の内容 ア 学級全体でつくった学習課題 イ 学習課題に対するぼく（わたし）の調べ方 ウ 予想の確かめ方 一ぼく（わたし）の調べ方 エ 予想を確かめるために調べることを調べるようにしたわけ オ 調べる方法・ことで、どのように調べるか。どんな資料を収集するか。 カ 調べたこと・まとめ方 ②次のような学習の仕方をも身につけているかどうか、課題解決を大きく左右する。 ア 地域での調査活動の方法 イ ファイルドワークの方法 ウ 地域の諸施設を活用する方法 エ 電話やファックスなどを活用する方法 オ 資料や図書を検索、収集する方法 カ 教育機器の活用方法 キ 調べたこと・まとめ方 ③グラフや地図、年表、図表、写真、絵、統計資料などの資料について、それぞれの見方や読み取り方、さらには作り方を事前に手厚く指導しておく。④「ビデオ教材の見方」や「ビデオの操作の手順と注意事項」などの「学習カード」をビデオデッキのところに添付する。 ①生徒一人一人が、自らのなかに自分なりの学習の仕方を確立し、自力で課題の解決にあたらうとする意欲と方向性をもつように生徒を支援する。 ②次のような事項について丹念に指導する。 ア 身の回りから問題を見つけ出し、自分のものとして自覚する。 イ 課題に対し、どのような方法や手順で解決するか考える。 ウ 自分なりの解決策にもとづいて、解決を図る。 エ 解決して得たことから成果を引き出し、自分の生活に生かす。	

(2) 実物資料・レプリカ・手作り資料を効果的に活用した授業

社会科を好きになるためには、授業に感動や驚き、そして当時の人々の生活感が肌で感じられる実物資料が効果的である。そのため、出来る限り実物資料を入手することに努め、入手が難しい場合は、手作りして実物に近い資料を出来る限り作っている。

(例・元寇の授業 鎌倉武士の弓矢・元軍の弓矢・実物大)

実物資料の提示による意外性から、課題解決学習の課題発見力の育成にも繋がる。

(3) 積極的な生徒指導の手法を生かした授業

「

好きな先生の教科は、勉強ができるようになる。」と言う。好きな先生とは、厳しさの中に優しさがあり、生徒の模範としてタイミングよい示範行動に努める先生であると考え、次の事を実践した。

① 授業状況調査の実施（授業規律の確立）

毎時間、全教科で「忘れ物」「授業態度」を確認し、調査簿に記録する。放課後クラス担任が調査簿を確認し、教育相談や三者面談に生かしている。

② カウンセリング・マインドの技法や社会的スキルの訓練を授業に生かす

授業の中で、温かく一人一人を認め、生徒同士の人間関係の醸成を図ることができた。

③ 自転車のパンク修理で生徒の心を掴む

生徒の98%が自転車通学であり、学校まで20分～30分と比較的遠くからの登校である。また、学校の周辺に自転車屋がなく、度々のパンクでは学校でのパンク修理が伝統になっている。パンク修理は、代々技術を受け継いできたパンク修理職人（ボランティアの生徒）が行ってくれるが、より高度な技術を要する時は教師の出番であり、修理をしてもらった生徒の心を掴むよいチャンスとなっている。修理をしてもらった生徒が増える度に、授業がやりやすくなっている。

(4) 学習方法・学習形態の工夫

毎時間、本時の授業のねらいを達成するために最も適した学習方法や学習形態を工夫する。これにより、授業に変化と興味を持たせると共に、生徒自らの課題設定と追究がしやすくなる。例としては、同じ課題同士のグループ学習や劇、ディベート、紙芝居、VTR、コンピュータ、クイズ番組、歴史新聞、出前授業、野外観察等である。さらに、毎時間1つ以上の生徒を引きつける秘策を用意すれば最高である。

4 成果と課題

(1) 成果

・Jプランにより、小学校から中学校へと5年間に渡り、一人一人の生徒に合った課題解決学習を計画的・継続的に実施していく中で、生徒にとって意外性のある社会的事象などとの出会いにより、生徒の中に疑問や課題が生まれ、それを解決していこうとする意欲を持った生徒が増えたと思う。また、それと同時に社会科を好きと答える生徒がアンケートからも増えている。

・一番の生徒指導は授業である。生徒一人一人に基礎的・基本的な学力の定着を図る授業での取組、特に規律ある態度や社会的スキルの訓練、自転車のパンク修理を通じた人間関係の醸成を図った取組が、生徒と教師、生徒同士の心の壁を取り除き、同じ屋根の下で共に学ぶ家族的な雰囲気生まれ、学校行事等での団結力に結びついていくように思う。

(2) 課題

・生徒全員がそれぞれ自分の課題を見つけ、予想を立ててから自ら考え判断し、解決をしていく資質や能力（課題解決の方法や学び方）を身につけ、課題解決の喜びを実感できる生徒の育成が課題である。